「Jesus standard」
～あなたの基準はどこから来ていますか～

Ⅱコリ５：１４～１７

私たちは息をしてくださいと言われたらどのようにしますか。吸いましたかそれとも吐きましたか？私たちは最初には吸ってしまう人が多いのではないかと思います。最初に吐けば、たくさんの空気を吸うことができます。これは私たちの無意識の中ですが、持っているものよりも不足に目が行ってしまいがちな性質を現しています。息をして、体内に酸素を取り込みますが、この酸素は人間に有害なものなのです。しかし有害な酸素も体内にいるミトコンドリアによってエネルギーに変換しています。体内にいる様々な菌も同様です。この菌などがいなくなったら、人は生きていくことはできません。このように人は誰かの助けがなくては生きていない存在なのです。しかしそれを忘れて、自分の力で生きているように錯覚しています。それがそれぞれ、自分の経験したこと、学んだことなどによって、自分の標準を作り上げています。私たちにとって当たり前のことは他人にとって当たり前ではありません。またそのことを説明しながら歩んでいません。（Ⅱコリ５：１４～１７）これはパウロが書いた手紙です。パウロという人物はパリサイ人の指導者として熱心に生活していました。そのため、旧約聖書に書かれている救い主の姿については良く知っていました。しかしイエスについてはパリサイ人の標準によって判断していました。聖書には殺してはならないと書いてあるのですが、パリサイ人はイエスを信じるものを迫害し、牢屋に入られてしまいました。ここに矛盾があっても、押し通してしまうような生き方でした。この聖書箇所を読むと「人のために生きる」ことを言われて“嫌だなぁ”や“とは言え〇〇だろう”と思うかもしれません。現代の自己啓発セミナーや生き方講習会などではこの部分が取り上げられます。“自分のために生きていませんか”“人のために生きていきましょう”“そうすれば人生よくなりますから”とよく言われます。しかしこのことを聞いた人は決してそれはできません。それは大事な部分が欠落しているからです。聖書は伝えています。確認したいことは**①標準が狂っていないか②新しくないとそれらはできない**ということです。私たちは新しい価値観をもっていないと人のために生きていくことはできません。人は持っていても、まだ欲してしまうからです。聖書には私たちはキリストにあって新しく造りかえられたものであるといっています。ではどの部分が新しくなるのでしょうか。それは人間的標準で人をみることしないということです。ではこの標準とはいったいどのようなものでしょうか。血液検査でいえば、検査項目の１つひとつに基準値が設けれられています。これは統計的に病気にならないであろうと思われる範囲を決めているだけです。ですから境界線や範囲があり、人によって違いがあります。私たちの価値観も自分の周りから聞いたことや自分の考えなどから、つくりあげています。悪なのか正なのか、ぎりぎりのラインで決めています。これが人によって違いが生じてしまう原因です。私は正しいと思っていても、周りの人は標準ではないと思っていることが多々あります。人との争いはここから始まっていきます。聖書の世界では自分の標準を超えたことが起こります。神のなさることは人の標準を超えているからです。神さまは私たちに〇〇をしなさいといいます。それは決してできないことではなく、神さまにあってできるようにしているのだから、〇〇しなさいと言われているのです。蒔いてもいないところから刈り取れとは言わず、蒔く種も与えるから実を結びなさい、収穫できるからと言ってくれます。しかし、私たちの標準を超えているために、受け入れることができません。（Ⅱコリ６：１～２）私たちの上にはもうすでに恵みがあるということなのです。これは私たちの標準ではありえないことです。神の奇跡が目の前で起こっても受け入れられないようなものです。私たちは神さまと共にいることを体験していますが、すぐに忘れてしまいます。また神さまは私たちの祈りを聴いて助けてくれますが、私たちの想像を超えた場合、受け入れる事ができません。助ける方法まで指定しているようです。聖書ではパウロは懇願しています。私たちの上には神さまの恵みがありますのでそれに気づいてくださいと。足りないものに目がいき、不満に目がいっていないでしょうか。ですから神さまは新しい法則を教えてくれています。受けた恵みを流す「種蒔きと刈り取りの法則」です。神さまは私たちにあふれるばかりの祝福を注いでくれています。その9割は私たちが楽しいんでよいがその1割を神に捧げないということです。神さまは私たちが生まれる前から計画を持ち、私たちがその計画を果たせるように恵みをいっぱい用意してくれています。それを神さまの方法で私たちに与えてくださいます。しかし私たちは自分で決めた方法でほしがるのです。その古い性質はすでに私たちにはありません。なぜならキリストにあって、新しく造られたからです。新しく造られたにも関わらず、古いと思い込んでいるのです。ですから**新しくなったstandard①あなたの恵みを知る。**あなたは既に恵みだらけなのです。ダビデは「まことに、私のいのちの日の限り、いつくしみと恵みとが、私を追って来るでしょう。（詩篇２３：６）」と語っています。いつくしみと恵みは追ってくるのであって、私たちの行く先々に置いてあるのではありません。しかし、後からついてくるいつくしみと恵みは怒涛の如く大きなものです。ちょろちょろと細かいものではありません。注意が必要なのは、蒔く種まで食べてしまうことです。種を蒔かない畑から収穫できるわけではありません。キリストの愛が私たちを取り囲んでいるのです。神の恵みの中に入っているのです。私たちはそれを信じて進むだけです。（Ⅱコリ９：１０、１１）私たちはあらゆる点で豊かになると約束されています。最終的に神への感謝となっていきます。**②賜物を真剣に用いていく。**タラントの喩え（マタイ25章）のように１タラント預かった人は神に不平不満をもらしながら、与えられているものを用いませんでした。このようになってはいけません。与えられているものは周りの人のために用いなければなりません。箱の中にいれて大事にとっておく必要はありません。周りの人のために用いるために与えられているのです。豚に真珠ということわざがあるように、私たちは用いないと意味がありません。用いることができれば、私たちには恵みが押し寄せてくるのです。（Ⅰペテ４：７～１０）今日のメッセージを凝縮したような御言葉です。互いに愛し合い、賜物を用いて互いに仕え合いなさいと言われているのです。**③与えられた種を蒔く。**食べちゃだめ。私たちに与えられた賜物を用いていきましょう。私たちに与えられた恵みを周りにいる人々に分け与えていきましょう。神さまは無いところから蒔けとは言っていません。（Ⅱコリ９；６～１０）キリストから恵みが注がれているのです。私たちにはあるんです。ですから今まで以上にほんの少しだけでも多く流していけるようにしましょう。ミレーの落穂拾いの絵と刈り取り日の収穫という絵があります。ミレーは聖書に従って人も、心も、土地も豊かに祝福されている地と反対に豊かになっていない地を見ました。その思いを絵に託し、後世へのメッセージとしました。そして聖書は心の豊かなボアズやルツを通してダビデへと続く系図に用いました。やがて歴史はつながり、イエスキリストの誕生へと繋がっていきました。私たちも自分のために生きていると豊かな実を結ぶことはできません。私たちがうけた愛やいのちを私たちがつなげていかなくてはいけません。自分だけのために生きていると自分だけにとどまり終わってしまいます。私たちの人生を継承していくことができる状況でしょうか。古い自分が出ていないでしょうか。私たちはキリストのよってすでに新しく造られたものです。キリストを標準として新しい歩み出し、私たちの周りの人々に愛を流していきましょう。（要約者：平澤一浩）